



### 鵜沼第一小学校「ういちっ子」による年賀状が届きました。

今年も、4～6年生の全ての児童が年賀状をかきました。子供のコメントです。

「寒い冬なので、少しでも温かい気持ちになってもらえるような絵を選んで描きました。」

「いい1年になってもらえるとうれしいなと思いながら書きました。」

「喜んでもらえるように、丁寧な文字で心を込めて書きました。」



(掲載した文章や写真は、鵜沼第一小学校よりご提供されたものです)

今年も、校長先生をはじめ教職員の方々のご尽力により、鵜沼第一小学校「ういちっ子」から年賀状が届きました。書く人は、届ける人を思い、届けられた人は、書いた人を思う。この思いの連鎖が紡ぐ地域の明日には、とても明るく優しさあふれる人との結びつきが感じられるように思えました。これからも地域の絆が感じられるような取り組みをしていきたいと強く感じました。

### お知らせ

今年度も、鵜沼第一小学校「ういちっ子」の児童による暑中見舞いと年賀状の取り組みをしてもらえました。教育活動には、実践すべき年間計画がある中で、鵜一地区社協の取り組みに協力をしていただいております。住所を記入したはがきを小学校にお届けした後に、変更等の申し出が民生委員の方からいただきます。今年度の年賀状希望は509通あり、変更の申し出にお答えできない場合があります。ぜひご理解いただき、児童の心がこもったはがきを、お受け取りいただければと思います。ご協力よろしくお願いたします。

### 珠玉な言の葉

#### こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと  
「遊ぼう」っていう。

「馬鹿」っていうと  
「馬鹿」っていう。

「もう遊ばない」っていうと  
「遊ばない」っていう。

そうして、あとで  
さみしくなって

「ごめんね」っていうと  
「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、  
いいえ、誰でも。

#### さびしいとき

私がさびしいときに  
よその人は知らないの。

私がさびしいときに  
お友だちは笑うの。

私がさびしいときに  
お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに  
仏さまはさびしいの。

(金子 みすず 詩集より)

私たちの世界は“こだま”で成り立っていると思います。  
“こだま”とは、こちらの存在を丸ごと受け入れて返してくれる行為。  
かつて私たちは、“こだま”してくれる大人に囲まれていたのではないのでしょうか。  
「痛い」といったら、「痛いね」といってくれたお母さん、おじいさん、おばあさん、先生…。  
痛いときに「痛いね」と言ってくれたおかげで、痛さは半分になるのでは。  
今はどうか。「痛い」といったとき、「痛くない」という大人が増えていないのでしょうか。  
否定することで、痛みは消えるのでしょうか。  
愛してくれるべき大人から「痛くない」と否定されたとき、その子の痛さはどこへいくのか。  
「痛さ」や「さびしさ」や「悲しさ」を入れる心の中にある器にそのまま入れるしかない。  
この器が中学生ぐらいでいっぱいになってしまう子がいる。そうすると新しい痛さや、さびしさ、かなしさに出会ったとき、その器をひっくり返してカラにしなければならない。この器をカラにする行為が、いじめをしたり、いじめられた子の自殺に結びつくのでは……。  
それなのに、私たち大人は「時代が変わった」「世の中が変わった」「なぜいじめが」とまるで自分とは関係がないかのようにいう。時代を変えたのも、世の中を変えたのも子どもたちではない。私たち大人。一番大切な子どもたちに“こだま”することを忘れ、一方的に否定することで、痛みをそのまま置いてきたことにも気付かずにいる大人が、子どもたちを追い詰めてしまったのではと……。

地域の皆様にお考えいただければと思います。いじめがなくなる一つの示唆に繋がればとの願いから”珠玉の言の葉”と「思い」を掲載いたしました。健やかに育ってね、「ういちっ子」に幸あれ。

(文責：鵜一地区社協 福祉推進員 玉井)

